

第5次

八潮市総合計画を策定 ③

広報やしお1月号に続き、計画の概要をお知らせします。

今回は、基本計画の6分野のうち防災・防犯・消防・救急と産業経済・観光における分野別将来目標と、その将来目標を実現するための各施策についてお知らせします。

問企画経営課 ☎内476

第3章

防災・防犯・消防・救急

～誰もが安全で安心して暮らせるまち～

【将来目標】

10年後の八潮市では、自助、共助、公助の考え方が広く市民に定着し、日頃から防災・減災に向けた市民、地域、行政の連携が図られ、地震や台風等の自然災害、感染症や大規模な事故等の危機に備えています。

また、市民、地域、行政が協働し、地域の安全な生活を守り、犯罪や交通事故の少ない、誰もが安心して暮らせるまちとなっています。

【施策】

- ① 災害に強いまちづくり (防災・減災)
- ② 危機に備えた体制づくり (危機管理)
- ③ 犯罪のない安全で安心なまちづくり (防犯)
- ④ 市民を守るまちづくり (消防・救急)
- ⑤ 交通事故のない安全で安心なまちづくり (交通安全)
- ⑥ 安全・安心で豊かな消費生活づくり (消費者保護)



第4章

産業経済・観光

～地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまち～

【将来目標】

10年後の八潮市では、地域の特性を活かした様々な産業が発展しています。付加価値の高い農産物が生産され、市内のみならず市外からも人気を得ています。市民は、市内各地の魅力あふれる店舗で買い物をすることができます。

また、工場が集積しているまちとして発展し、新たな事業も生まれ、働く機会が増えています。

八潮市の財産である水辺環境等が観光に活用され、多くの人が訪れる、にぎわいや活力のあるまちとなっています。

【施策】

- ① 環境にやさしい魅力ある都市型農業づくり (農業)
- ② 魅力あふれる商業づくり (商業・サービス業)
- ③ 活力ある工業づくり (工業)
- ④ 水と花にふれあう観光づくり (観光)
- ⑤ いきいきと働ける就業環境づくり (労働)



東日本大震災から5年

やぶきまち

福島県矢吹町の復興を応援

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から、5年が経とうとしています。市は、平成23年8月1日から平成26年3月29日まで、延べ6人の職員を福島県矢吹町に派遣し、復興を支援しました。

矢吹町は、震災以前の生活を取り戻すため、現在も、住宅等の除染や中心市街地のにぎわい創出などの取り組みを行っているため、その様子をお知らせします。

また、矢吹町の復興を応援するため、町の観光名所である大池公園、三十三観音および町で生産している農産物を紹介します。

問広聴広報課 ☎内423

矢吹町の概要と被害状況

矢吹町は人口約1万8,000人で、福島県の中通り南部に位置しています。町の基幹産業は農業で、農地が町の面積の半分以上を占めています。



道路の崩壊

東日本大震災では、人的被害はなかったものの、住宅等の被害は約4,800件、公共施設等の被害は約1,000カ所、被害額は約50億円と甚大でした。

復興を進める矢吹町

東日本大震災の発生後、八潮市からも職員を派遣し、復興支援として道路の復旧、ため池の補修業務および固定資産税の減免業務を行いました。



除染の様子

現在、町では、主に住宅等の除染や中心市街地のにぎわい創出などの取り組みを行っています。

矢吹町の魅力を紹介

町の主な観光名所および農産物を紹介します。

問福島県矢吹町産業振興課 ☎0248-42-2115

..... 大池公園

大池公園は、「水・花・緑が香る公園」をテーマに、池と町木のアカマツの生い茂る自然空間を生かし、人々の安らぎと憩いの場とするため、昭和59(1984)年より事業に着手し、平成16(2004)年度に完成しました。大池周辺はアカマツの林に囲まれ、周囲約2キロメートルの遊歩道が続き、公園内には桜や紫陽花、スイレンなど四季折々の花が咲き、7月上旬から1カ月間は『天賀蓮(古代蓮)(別名 2千年蓮)』を観ることができます。その他、遊具やキャンプ場、ソフトボール場、日本庭園や茶室、ふるさとの森芸術村や、陶芸施設、直売所などさまざまな施設があります。



..... 三十三観音

隈戸川に面する10メートル余りの断崖に、龕高【がんこう】90センチメートル以内・像高40～60センチメートルの仏像の彫刻があります。尊像は薬師如来【やくしによらい】1体、阿弥陀如来【あみだによらい】1体、地藏菩薩【じぞうぼさつ】1体、観音菩薩

【かんのんぼさつ】(各種) 32体、尊名不詳2体の合計37体です。

磨崖仏【まがいぶつ】の大きさ、作風から同時期に制作されたものと思われるが、造立年代は『白河風土記』(文化2(1805)年刊)に記載があることから、それ以前であることは確かで、像容【ぞうよう】などから江戸時代中期以後(1750～1800年)と考えられています。

崖上には、前九年の役(1050年ごろ)に源義家が凱旋のおり、矢柄で屋根をふき建立したと伝えられている「八幡神社」の小祠【しょうし】があり、これが矢葺(矢吹)の地名のゆかりとなっています。



..... 農産物

町の農産物は、阿武隈川、隈戸川、泉川からのミネラル豊富な水とその下流域に広がる良質な大地で作られます。米、キュウリ、ブロッコリーなど、味はどれも一級品です。

中でもトマトやイチゴはこの冬の時期が旬で糖度が高く、特にトマトは糖度9.5を超えるものを「旬太郎トマト」ブランドとして販売しています。

